

【取組報告】

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に向けて
～協議の場の醸成に向けた取り組み～

香川県

精神科病院と地域の支援機関
が協働で地域移行を推進

1 香川県の基礎情報

香川県



取組内容

【地域包括ケアシステムの構築に向けた取組み】

- 地域移行・地域定着支援推進事業圏域協議会
(保健所単位で、地域移行・地域定着に関わる医療、福祉、保健(行政)の関係者で支援策を検討)
- 高松圏域自立支援協議会精神保健福祉部会
(圏域内の地域移行・地域定着に関わる医療、福祉、保健(行政)の関係者で支援策を検討)

基本情報

障害保健福祉圏域数 (H30年4月時点)	5	か所		
市町村数 (H30年4月時点)	17	市町村		
人口 (H30年4月時点)	962,054	人		
精神科病院の数 (H30年3月時点)	19	病院		
精神科病床数 (H30年3月時点)	3,427	床		
入院精神障害者数 (H29年6月時点)	合計	2,950	人	
	3か月未満 (%:構成割合)	576	人	
	3か月以上1年未満 (%:構成割合)	19.5	%	
	1年以上 (%:構成割合)	456	人	
		15.5	%	
	1年以上 (%:構成割合)	1,918	人	
	うち65歳未満	65.0	%	
	うち65歳以上	755	人	
退院率 (H28年度)	入院後3か月時点	1,163	人	
	入院後6か月時点	64.5	%	
	入院後1年時点	81.1	%	
相談支援事業所数 (H30年4月時点)	基幹相談支援センター数	89.5	%	
	一般相談支援事業所数	1	か所	
	特定相談支援事業所数	31	か所	
保健所数 (H30年4月時点)		57	か所	
		5カ所 (県4カ所、中核市1カ所)	か所	
(自立支援)協議会の開催頻度 (H29年度)	(自立支援)協議会	2回/年 (県協議会) 4回/年 (地域移行部会)	回/年	
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた保健・医療・福祉関係者による協議の場の設置状況 (H30年3月時点)	都道府県	有	1	か所
	障害保健福祉圏域	有	5 / 5	か所/圏域数
	市町村	無	0 / 0	か所/市町村数

	3ヶ月未満入院者数	3か月以上1年未満入院者数	1年以上入院者数	政策効果による地域移行数	合計
平成27年6月末	510 人	452 人	1,978 人		2,940 人
平成28年6月末	520 人	470 人	1,965 人		2,955 人
平成29年6月末	576 人	456 人	1,918 人		2,950 人
平成32年度末				386 人	
平成36年度末				846 人	

2 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組概要（全体）

- 1. 香川県精神障害者地域移行・地域定着推進事業運営協議会（県障害福祉課）**
 - 精神科病院、障害福祉サービス事業所、市町、保健所、精神保健福祉センター等の責任者で構成
 - 精神障害者の地域生活支援に向けた支援や課題解決に向けた検討・調整
- 2. 香川県精神障害者地域移行・地域定着支援事業圏域協議会（保健所）**
 - 地域移行・地域定着支援に直接関わる者（精神科病院、障害福祉サービス事業所、市町、保健所）で構成
 - 圏域内の支援体制の調整、地域移行・地域定着支援に係る課題の解決に向けた支援等を検討
- 3. 精神障害者地域移行・地域定着支援関係者研修（保健所）**
 - 地域移行・地域定着支援に携わる関係者を対象に研修の実施
- 4. ピアサポーター活用事業（県障害福祉課、保健所）**
 - 精神科病院への*キャラバン隊、精神障害の理解の研修会の講師など、ピアサポーター活用に向けた検討
 - ※キャラバン隊：入院中施設入所中・地域で生活している当事者や家族、支援者を対象に障害のある方が安心して生活するために県自立支援協議会地域移行部会のメンバーが地域の生活の情報提供等を説明、相談等行う。（3障害対象）
 - ピアサポーター養成講座の開催

○香川県精神障害者地域移行・地域定着支援推進事業運営協議会（香川県障害福祉課）

1. 構成メンバー

精神科病院医師、学識経験者、障害福祉サービス事業所、精神保健福祉センター
保健所、家族会代表の責任者

2. 開催頻度

年1回

3. 主な協議内容

- ・香川県の取組みの報告
- ・精神障害者の地域生活支援に向けた支援や課題解決に向けた検討・調整

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯

年度	事業内容
H24～	地域移行・地域定着支援事業 ・運営協議会、圏域協議会にて精神障害者の地域生活支援に向けた検討 ・ピアサポーター活用事業 ・精神障害者地域移行・地域定着支援関係者研修
H24～ H25	精神障害者アウトリーチ推進事業 ・アウトリーチチーム(精神科病院委託)
H25～ H26	高齢入院患者地域生活支援事業 ・精神科病院4機関に委託
H25～	県自立支援協議会地域移行部会の開催 ・地域移行・地域定着を進めるための方策検討(相談支援事業に係る調査、退院支援に係る精神科病院調査) ・地域移行キャラバン隊の派遣
H28	長期入院精神障害地域移行総合的推進体制検証事業 ・高松障害保健福祉圏域で実施 ・精神科病院連絡会の開催

4 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組の経緯等

○H15年度から23年まで退院促進事業を実施。

⇒退院支援が可能な人は退院につながった。

○H24年度に地域相談支援が個別給付となって以降、事業利用して退院者は減少。

○H25年度より県自立支援協議会 地域移行部会で協議。

⇒精神科病院調査、キャラバン隊実施、各圏域ごとに協議の場は継続してきた。

悩み

⇒退院意欲が乏しい方、入院が長期化している方、高齢の方など、退院支援がより困難と考えられる入院者に対し、どうアプローチしたらよいか。

課題

- ・地域移行支援の必要性を支援者が十分に理解していない。
(病院関係者による温度差、これまで精神障害者の受け入れ経験のない事業所や介護関係者等の不安)
- ・地域移行相談を受ける事業所のマンパワー不足
- ・ピアサポーターの必要性を感じているが育成活用等不十分。
- ・地域の偏見や理解が不十分。

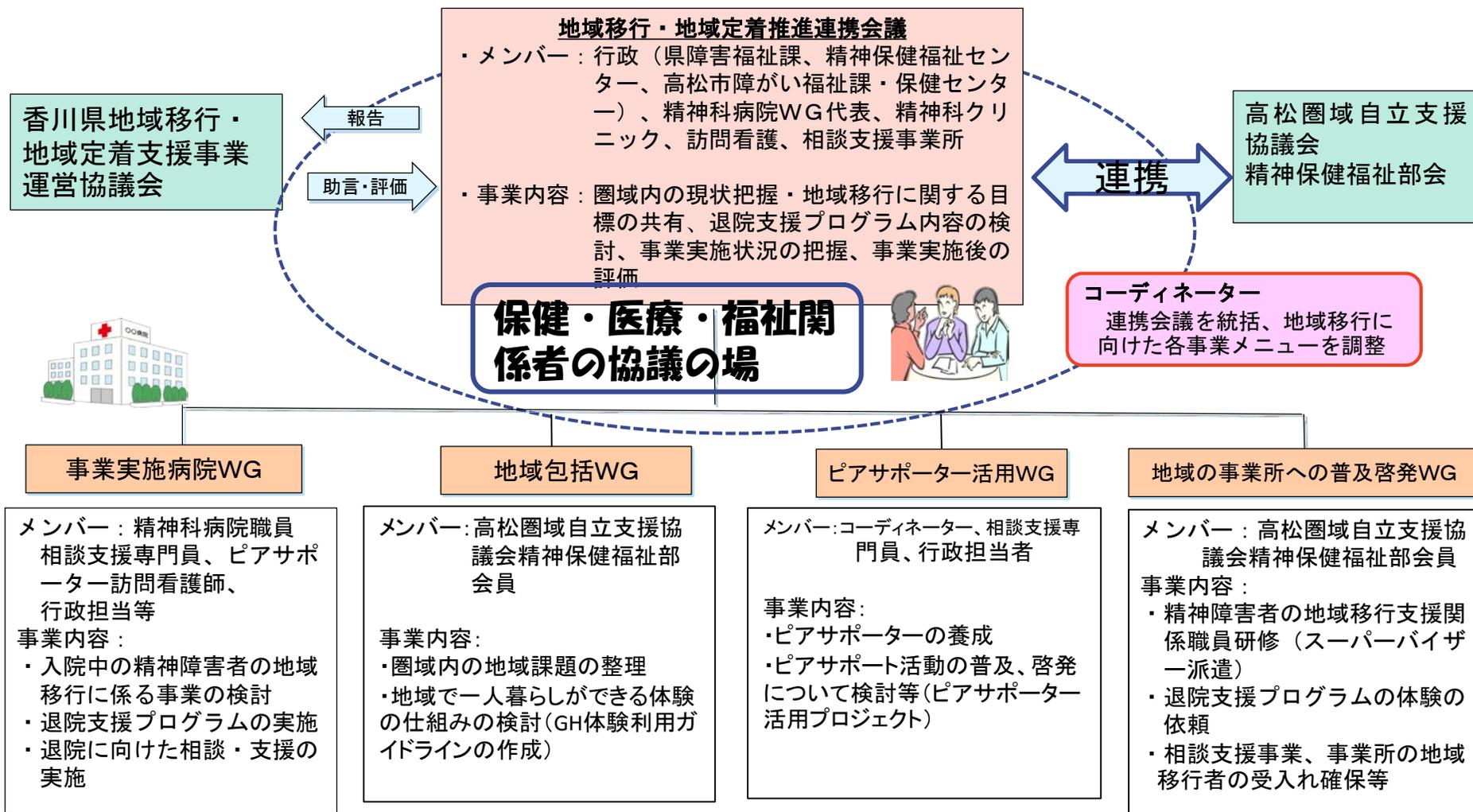
地域の支援体制や地域づくりが必要。

ノウハウが無い・・・他県の先進的なとりくみやアドバイス支援を受けたい！

⇒高松圏域をモデル地域として平成28年度から事業を活用
高松圏域から県下に取り組みが広がることを期待。

平成29年度香川県精神障害者地域移行・地域定着推進事業 (精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業体制)

高松障害保健福祉圏域において、保健・医療・福祉関係者が、圏域内の地域移行の現状及び課題を共有し、精神障害にも対応した地域包括システムの構築に向けた事業を行う。



5 協議の場の設置概要

【地域移行・地域定着推進連携会議】

1. 構成メンバー

コーディネーター(相談支援事業所)1名

行政(精神保健福祉センター、高松市保健センター、高松市障がい福祉課)3名

医療(精神科病院、クリニック、訪問看護ステーション)5名

福祉(地域生活支援センター、相談支援事業所等)4名

事務局:県障害福祉課

2. 主な協議内容

○会の持ちかた・・・自立支援協議会と連携

自立支援協議会精神保健福祉部会から引き続き実施。

部会の中で出た課題や取組みを連携会議のWGとして取り上げ取組む

○具体的に・・・

・病院WG (退院支援プログラムの実施)

・地域包括WG (グループホーム体験利用ガイドライン作成)

・ピアサポーターWG (啓発DVDの作成、ピアの養成と活用、居場所作り)

・地域の事業所への普及啓発GW (研修会やスーパーバイザーの派遣)

6 高松圏域協議会 協議の場 開催に向けた 準備等

○事務局

⇒ 自立支援協議会精神保健福祉部会・・・相談事業所
連携会議・・・県 障害福祉課

○開催に向けた 準備

⇒ ・委員間で意見交換できるメーリングリストを使用し、圏域協議会間の連携を密にした。
・事前にメーリングリストで資料を送り、目を通してもらっておく。
・必要に応じ、行政、密着アド、部会のメンバーで協議会の打ち合わせをした。
(H30年度からは協議会後に定例開催)

○協議内容の選定等、課題出し経過

⇒ 密着アドバイザーが部会長と事前協議し、協議会に課題などを提案・継続審議した方がい
い場合は連携会議でWGを立ち上げ協議。

○会議に提出している資料

⇒ 基本的にコーディネーターが随時集約し、経過報告書として協議会に提出。(平成29年度)

○その他、開催に向けて 工夫している点

⇒ 連携会議で議論が終結しないように、必要によって、部会を通じて自立支援協議会運営
会議に提案して意見をもらった上で、連携会議を開催する。

7 高松圏域協議会（連携会議） 平成29年度の実施内容

開催月	協議内容
4月	病院WG経過報告、病院研修会の結果の共有、ピアの活動について
5月	今年度の地域包括ケアシステム構築支援事業スケジュールについて高松圏域の課題とWGでの分担について
6月	病院WGの報告と今年度の研修について意見交換 各WG(地域包括WG,精神科病院)に分かれて話しあい
7月	<p>・地域包括ケアシステムの構築支援事業研修会(高松圏域内) 講義:「実効性のある地域包括ケアシステムを構築するために地域移行・地域定着支援事業をどう活用するか」 講師:精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業広域アドバイザー</p>
8月~11月	研修の振り返りと意見交換、各WGでの話し合い ピアサポーター活用プロジェクトWGについて(8月~年度末 計13回実施)
12月、1月	<p>・精神障害者地域移行・地域定着推進事業情報交換会 事業進捗状況について情報交換し、広域アドバイザーより今後の進め方などについて助言</p> <p>・地域包括ケアシステムの構築支援事業人材育成研修会(県内) 講義:「地域包括ケアシステムを構築するために地域移行・地域定着支援事業をどう活用するか」 講師:精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業広域アドバイザー</p>
2月、3月	来年度事業について、部会との取組みや連携、事業評価

8 高松圏域協議会での成果等

＜協議の場で協議された内容が、具体的な活動に結びついた成果＞

- ・ピアのWGでプロジェクトチームをつくり、啓発用のDVDを作成した。
- ・ピアの運営について協議する場が、定例開催されることとなった。
- ・地域包括WGでグループホームの宿泊体験のガイドラインのたたき台を作成し、自立支援協議会精神保健福祉部会で確定させた。それを市担当者が市で協議し、一部修正のうえ、ガイドラインを自立支援協議会で発行した。
- ・ピアの活動の場の拡大についても精神保健福祉部会で検討し、市の家族会等で講演する活動を得た。

＜具体的な活動に結びつけるための、実務関係者、市町村関係者との連携＞

- ・地域移行の必要性を説く、広域アドバイザーの講演で、市担当者の地域移行推進に対する意識が高まった。
- ・本事業の主体を平成31年度から県から市に移すことを県が提案することで市担当者の地域移行に対する意識が変わった。

9 今年度の計画（抱負等）

1. 圏域ごとに精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向け、地域移行支援関係者が協働し具体的な取組みについて検討する。
 - * 高松圏域は基幹相談支援センターと連携し、市が主体的に取り組めるようにする。
 - * 小豆圏域にも取組みを拡大する。
2. ピアサポーター活動体制が構築できる。
3. 地域移行支援に関わる人材を育成する。理解者・支援者の拡大と連携の強化。

時期 (月)	実施する項目	実施する内容	該当する 目標番号
H30年 4月～	協議の場	・地域移行・地域定着支援圏域協議会 圏域内の課題の共有、具体的な取組みの検討 (各圏域ならびに保健所) * 高松の部会・・・ピアがメンバーに追加	①
7～10 7～10 月	支援者研修会 ピアの育成活用	・地域移行支援関係者研修 (各保健所、県、高松は基幹相談センターを事務局として実施) ・ピアサポーター養成と活用検討(県下、小豆) 高松ではピアも企画参加	③ ②
	長期入院者への面接	・本人、主治医が退院できると判断しているが、退院が見込めない人を対象をリストアップ⇒地域支援者の面接実施を検討(高松)	